

令和3年度事業状況報告について

当建設技術センターは、公共事業の円滑な執行と、建設関連産業の発展に資するため、令和3年度においても、「研修」、「試験」及び「発注者支援（受託）」の3事業を実施しました。

まず、「研修事業」においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、受講者数を制限して開催しました。県技術職員及び市町村職員はもとより、広く建設産業全般に携わる専門技術者の技術水準の向上を図るため、発注者や受注者を対象とした各種の研修を実施しました。

また、「試験事業」については、これまでどおり建設工事の品質確保と信頼性の向上のため、工事に使用する各種資材の試験を実施しました。

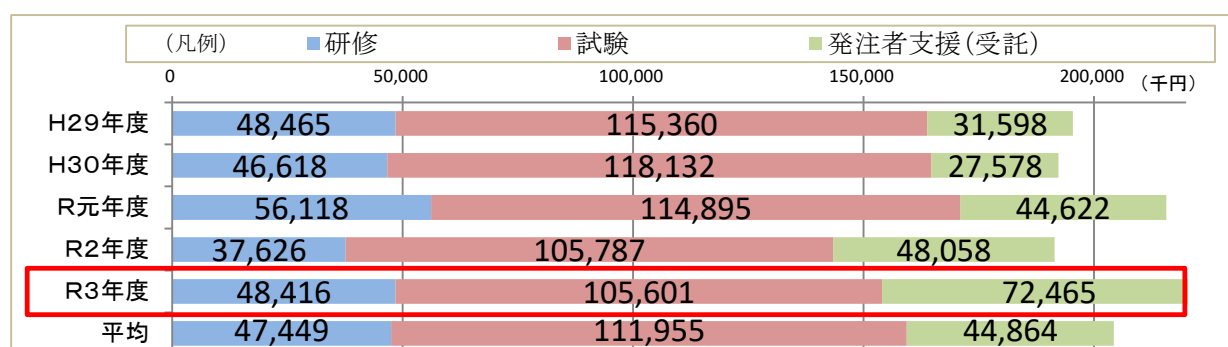
最後の「発注者支援（受託）事業」については、県内公共事業の円滑化向上のため、県、市町村発注工事の積算、そして県で実施される総合評価方式による落札者決定に関する技術資料作成などの業務を受託しました。

表－1 過去5年間の事業実績

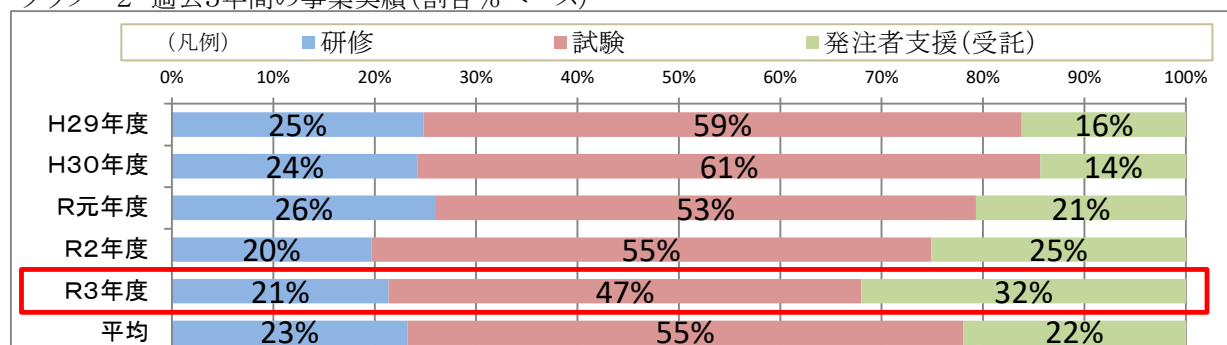
事業 年度	研 修		試 験		発注者支援(受託)		事 業 収 入	
	受講人数	金額 (千円)	試験本数	金額 (千円)	契約件数	金額 (千円)	金額 (千円)	前年度 対比
H29年度	3,554	48,465	44,551	115,360	14	31,598	195,423	119.9%
H30年度	3,538	46,618	49,252	118,132	8	27,578	192,328	98.4%
R元年度	3,695	56,118	45,180	114,895	8	44,622	215,635	112.1%
R2年度	1,877	37,626	40,141	105,787	7	48,058	191,471	88.8%
R3年度	2,792	48,416	38,432	105,601	9	72,465	226,482	118.3%
平均	3,091	47,449	43,511	111,955	9	44,864	204,268	

注) 研修事業の金額は、研修受講料、研修支援業務収入及びテキスト販売収入を、また、試験事業の試験本数及び金額には、共同試験場への委託によるものを含んでいます。発注者支援（受託）事業の金額は、積算業務収入、技術審査等業務収入及び発注者支援業務等を含んでいます。

グラフー1 過去5年間の事業実績(金額ベース)



グラフー2 過去5年間の事業実績(割合%ベース)



1 研修事業について

研修には、建設技術等の知識習得を目的とした一般研修、そして、パソコンを使用した CAD 等の操作習熟を目的とする実務研修があります。

令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、受講者数を収容人数の50%以下と制限して開催いたしました。更に、「新型コロナウイルス感染症 対策ガイドライン」と「研修会開催に向けてのセンターの対応方針」を策定し、受講者の体調チェックやこまめな消毒等を徹底しながら実施しました。また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出ている地域からの講師については、遠隔地からのWEB配信での遠隔研修を行いました。

このようなコロナ対策を行いながら、一般研修では、計画どおり36講座で実施し、受講者数は計画と比較して291名減の2,586名となりました。

また、実務研修においても、計画どおり2講座で実施し、受講者数は、計画と比較して2名減の206名となりました。

一般研修と実務研修を合計した全体でみると、293名減の受講者数となりました。

表－1 研修受講者数及び講座数(令和3年度実績・計画、令和2年度実績)

(単位:人)

年度 研修区分	令和3年度				③ 受講者増減 対計画 ①－②	④ 令和2年度 受講者実績	⑤ 増減 ①－④
	実績		計画				
	① 受講者	講座数	② 受講者	講座数			
一般研修	2,586	36	2,877	36	△ 291	1,748	838
実務研修	206	2	208	2	△ 2	129	77
合計	2,792	38	3,085	38	△ 293	1,877	915

表－2 令和3年度研修の実施状況(一般研修)

(単位:人／1回)

4 月		5 月		6 月		7 月	
研 修 名	受講者	研 修 名	受講者	研 修 名	受講者	研 修 名	受講者
1)土木の基礎(初級)	72	4)発注者実務(基本編)	71	7)管理者研修(建築)	7	14)PC上部工の施工管理	55
2)積算の基礎(初級)	72	5)施工管理(発注者)	72	8)管理者研修(土木)	42	15)地質調査と構造物設計	69
3)工事測量初級(受注者)	36	"	72	9)森林土木	72	16)橋梁の補修・補強	89
" (発注者)	35	5)施工管理(受注者)	72	10)道路メンテナンス	69	17)公共建築工事の施工管理	72
		"	72	11)コンクリート品質管理(受注者)	72	18)構造物の補修・補強	72
		6)災害復旧実務	72	" (発注者)	68		
				12)アスファルト舗装(受注者)	72		
				" (発注者)	71		
				13)コンクリート	72		
4 回	215	6 回	431	9 回	545	5 回	357
8 月		9 月		10 月		11 月	
研 修 名	受講者	研 修 名	受講者	研 修 名	受講者	研 修 名	受講者
19)i-Construction	72	23)砂防実務	72	28)三部研修(都市計画・砂防)	46	34)補強土壁	73
20)建築設備	46	24)2級土木施工管理技士受験準備講習会	61	29)公共事業と安全管理	71	35)新技術・新工法	52
21)農業土木	69			30)公園緑地	70	36)建設業初任者実務	10
22)のり面	72	25)下水道	72	31)橋梁点検(資格更新)	45		
		26)熊本県の地質	72	32)橋梁点検	44		
		27)港湾・海岸	66	33)橋梁の計画・設計	25		
4 回	259	5 回	343	6 回	301	3 回	135
研修数及び受講者数計						42回	2,586人

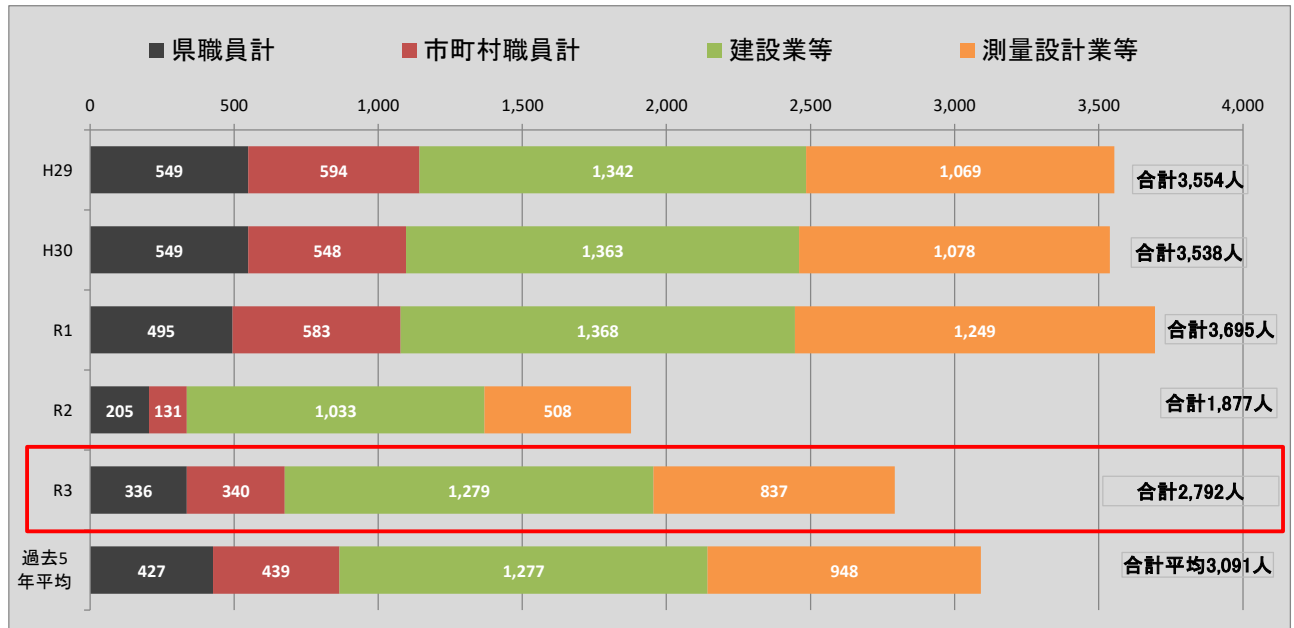
表－3 令和3年度研修の実施状況(実務研修) (単位:人／1回)

研 修 名	研 修 日	回数	受講者(人)
1)電子納品作成・検収研修	5月～ 10月	6回	72
2)CAD研修	4月～ 9月	10回	134
合計		16回	206人

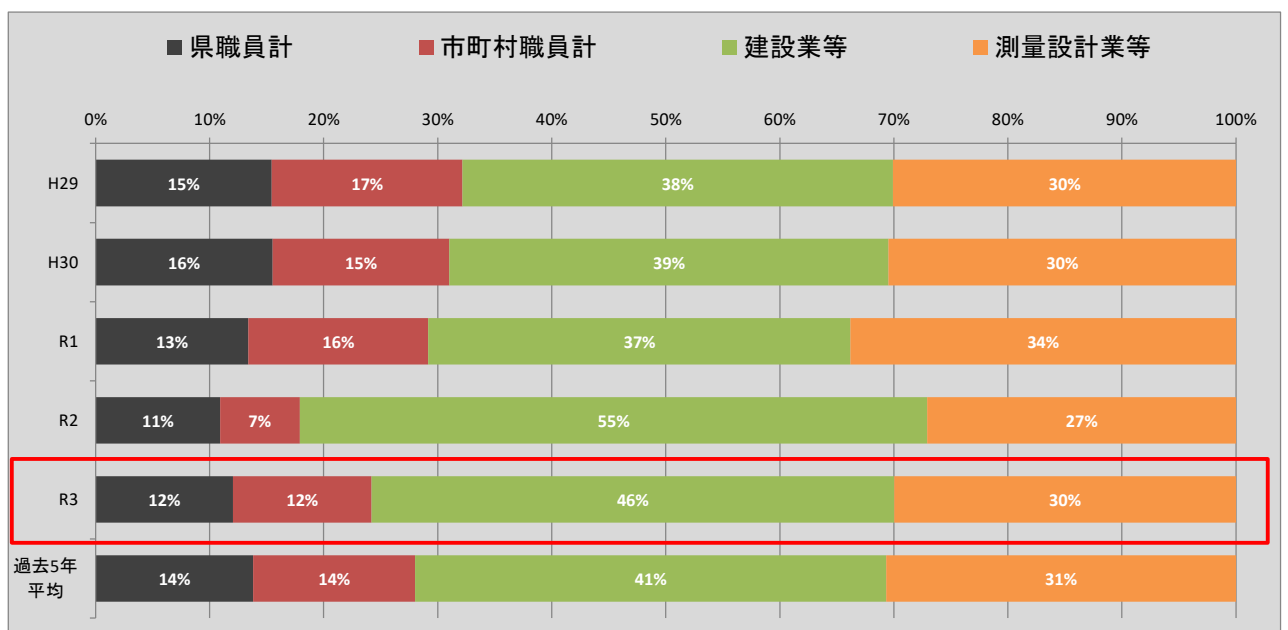
過去5年間(H29～R3)年度別・業態別 受講者数の概要

◇ 一般及び実務研修(合計) 年度別受講者数

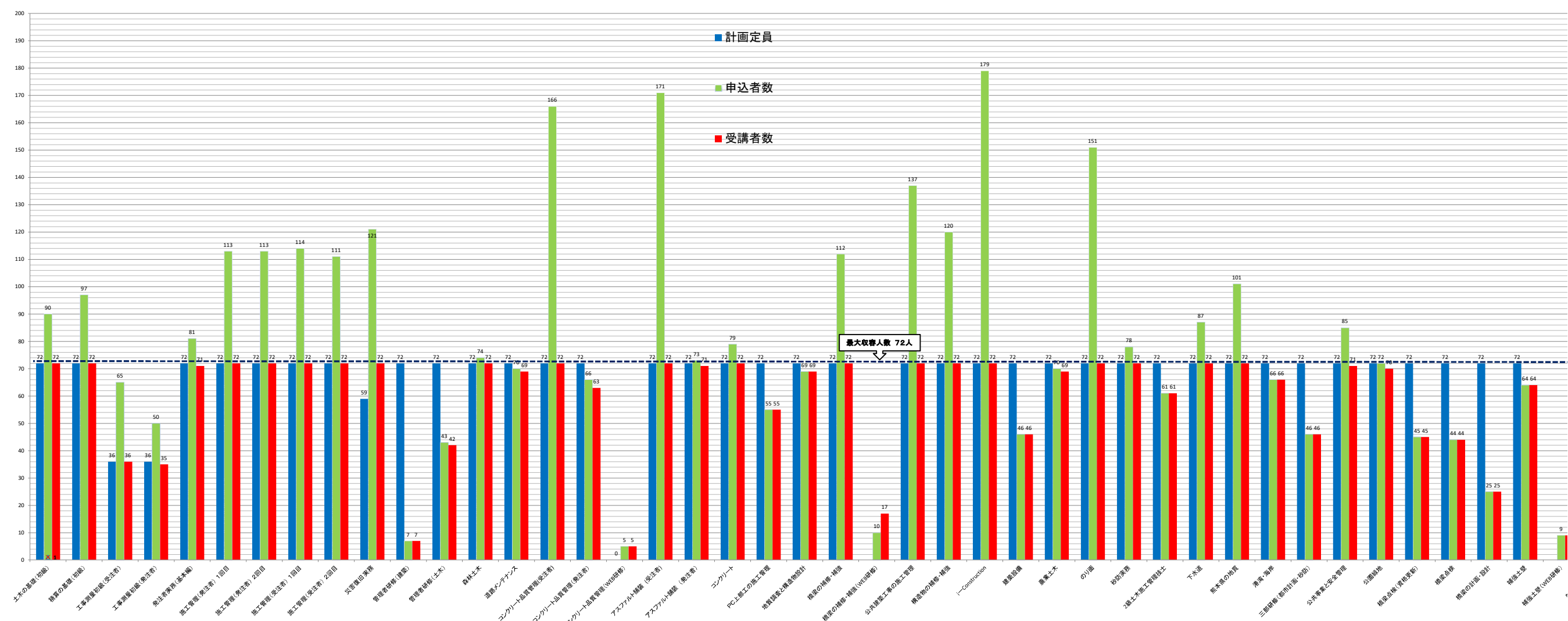
グラフ1 一般＋実務 研修受講者 業種毎(積上げグラフ) 単位:人



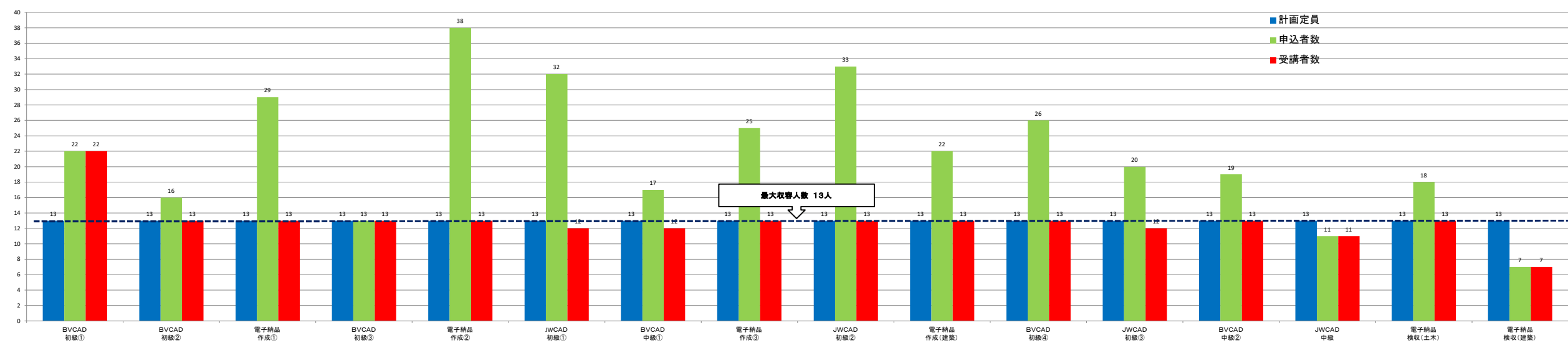
グラフ2 一般＋実務 研修受講者 業種毎グラフ(100%積上げ割合) 単位:%



グラフー3 令和3年度 一般研修事業 受講者数



グラフー4 令和3年度 実務研修事業 受講者数



3 発注者支援(受託)事業について

令和3年度における発注者支援（受託）事業の実施状況は、次のとおりです。

(1) 積算及び現場監督等業務

県土木技術管理課から各振興局の工事費積算を3件（23箇所）、相良村からトンネル補修工事の積算を1件（1箇所）、水上村から橋梁補修工事の積算を1件（1箇所）の合計5件、31,519千円。

(2) 事前登録及びデータベース作成業務

県土木部及び農林水産部から総合評価方式における事前登録補助及びデータベース作成業務を2件、12,021千円。

(3) 代行業務

水上村から、橋梁点検代行業務を1件、18,621千円。

(4) その他委託業務

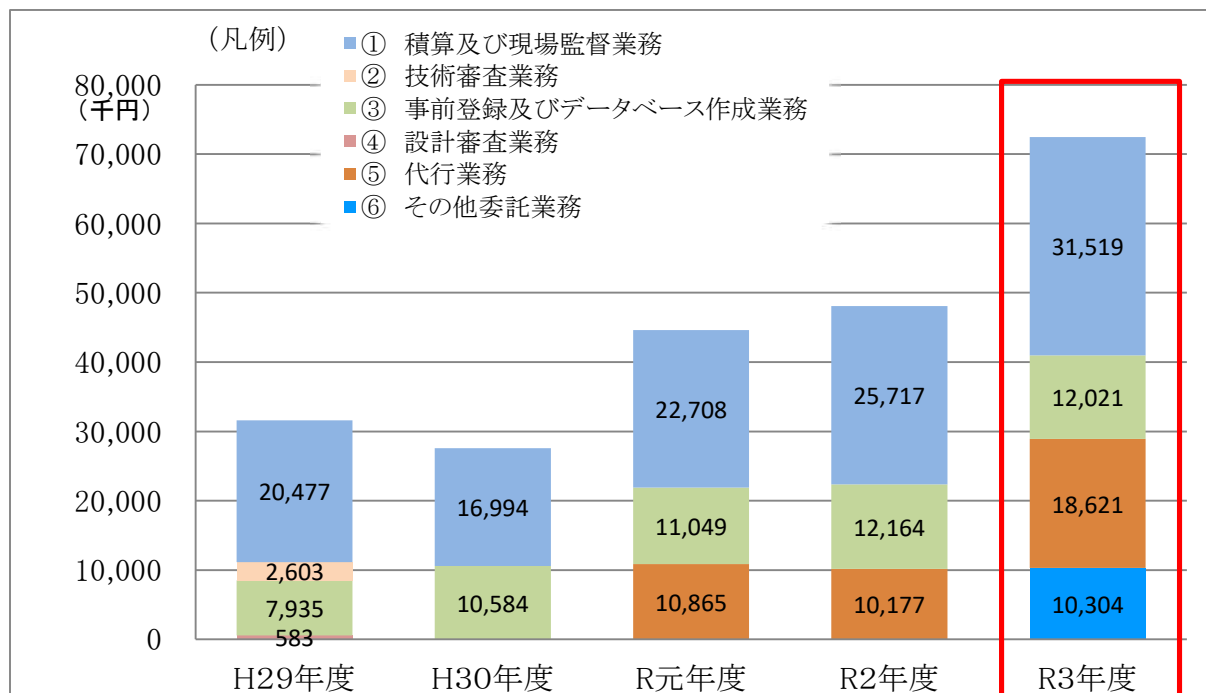
土木技術管理課から土木部の台帳一元管理検討業務を1件、10,304千円（令和2年度からの繰越）

表－1 年度別発注者支援状況の推移(過去5年間)

(単位:千円)

年度別 発注者支援内訳		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
① 積算及び 現場監督業務	金額	20,477	16,994	22,708	25,717	31,519
	件数	5	6	5	4	5
② 技術審査業務	金額	2,603				
	件数	6				
③ 事前登録及びデータ ベース作成業務	金額	7,935	10,584	11,049	12,164	12,021
	件数	2	2	2	2	2
④ 設計審査業務	金額	583				
	件数	1				
⑤ 代行業務	金額			10,865	10,177	18,621
	件数			1	1	1
⑥ その他委託業務	金額					10,304
	件数					1
計	金額	31,598	27,578	44,622	48,058	72,465
	件数	14	8	8	7	9

グラフー1 年度別発注者支援状況の推移



2 試験事業について

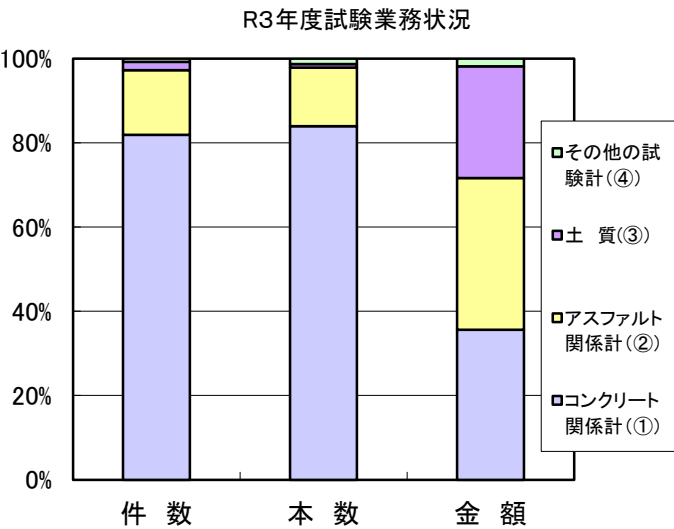
試験事業については、関係協会から派遣されたコンクリート、アスファルト及び土質試験に関する専門技術者を中心に、各種基準(JISや日本道路協会などが定めた基準)に則り、専門技術を有する公的機関として厳格で正確な試験を実施して参りました。また、県内建設産業が求める高度な試験ニーズに対応でき、信頼される試験機関として存立するよう、職員の技術研鑽や試験機器の整備などに努めました。

令和3年度の収入額については、105,601千円となり、令和2年度の105,787千円とほぼ同額という結果になりました。

試験機器の維持更新については、コンクリート圧縮試験機3台のJIS推奨による点検・校正などを行いました。

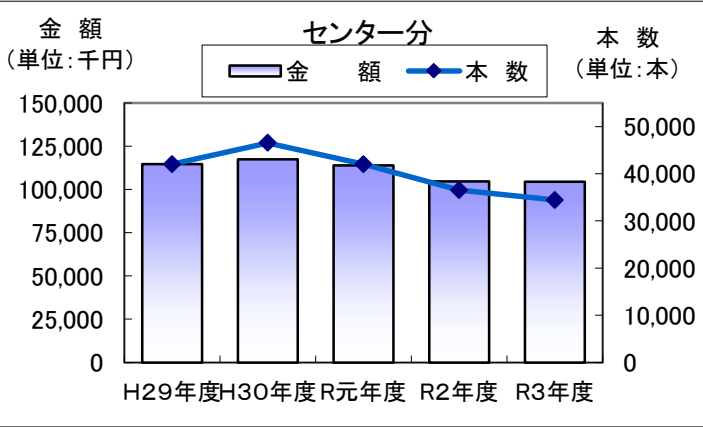
(1) R3年度試験業務の状況

試験内容	件数 (単位:件)	本数 (単位:本)	金額 (単位:千円)	参考(R2年金額) (単位:千円)	R3-R2 (単位:千円)
コンクリート	8,812	28,887	36,351	38,681	-2,330
セメント・水	15	15	801	320	481
コンクリート関係計(①)	8,827	28,902	37,152	39,001	-1,849
アスファルト	1,632	4,427	33,044	33,231	-187
アスファルト事前審査	20	365	4,545	4,070	475
アスファルト関係計(②)	1,652	4,792	37,589	37,301	288
土質(③)	211	278	27,689	26,340	1,349
細骨材	41	125	621	668	-47
粗骨材	31	210	1,034	990	44
空洞コンクリートブロック	0	0	0	51	-51
割栗石材	15	126	232	222	10
その他の試験計(④)	87	461	1,887	1,931	-44
その他(副本等)	—	—	164	197	-33
小計	10,777	34,433	104,481	104,770	-289
共同試験場(水俣、人吉球磨、天草)⑤	1,333	3,999	1,120	1,017	103
合計	12,110	38,432	105,601	105,787	-186



(3) 試験本数、金額の年度別の推移

	本数	金額
H29年度	42,008	114,648
H30年度	46,546	117,374
R元年度	42,025	114,012
R2年度	36,508	104,770
R3年度	34,433	104,481



(2) R3年度発注者の区分別本数の推移(センター分)

(単位:本)

年度	県関係				国関係	市町村	団体等	民間	計②	合計 ①+②
	土木	農林水産	その他	計①						
H29年度	8,720	1,922	747	11,389	1,555	11,323	2,408	15,333	30,619	42,008
H30年度	8,355	2,273	571	11,199	1,409	14,242	1,441	18,255	35,347	46,546
R元年度	6,243	1,636	480	8,359	1,717	13,288	2,527	16,134	33,666	42,025
R2年度	5,449	1,883	152	7,484	1,436	11,809	2,449	13,330	29,024	36,508
R3年度	6,252	1,746	191	8,189	704	10,166	1,411	13,963	26,244	34,433

◎ 共同試験場分

	本数 (本)	金額 (千円)
H29年度	2,543	712
H30年度	2,706	758
R元年度	3,155	883
R2年度	3,633	1,017
R3年度	3,999	1,120

